

「子宮頸がん大学連携セミナー」開催報告

子宮頸がんは、近年、20代～30代の若い女性に増えていますが、この世代の方が、子宮頸がんに関する正しい知識を持つ機会が少ないのが現状です。

そこで、愛知県では、大学生の皆さんに正しい知識を持っていただくため、平成26年度から、大学と連携し、セミナーを開催する取組を始めました。平成29年度のセミナーは、下記のとおり、桜花学園大学・名古屋短期大学において実施しました。

記

開催日時 平成29年5月10日（水）午後1時10分～午後2時10分

開催場所 桜花学園大学・名古屋短期大学 体育館

主催 愛知県・桜花学園大学・名古屋短期大学

参加者 上記大学の学生、教職員等 142名

開催内容

講演「20～30代女性増加!!子宮頸がん～知らないと損、正しい知識～」

愛知県がんセンター中央病院 婦人科部 部長 水野美香先生



水野先生の講演では、まず、女性のライフサイクルや月経、妊娠といった女性の体に関する基礎知識を教えてくださいました。そのうえで、子宮頸がんの主な発症原因は、性交渉によるHPV(ヒトパピローマウイルス)感染であり、誰でも罹る可能性のある身近な病気であること、早期発見にはがん検診が有効であること、子宮頸がん検診の内容や、がんが見つかった場合の治療方法等、幅広い知識を分かりやすく教えてくださいました。子宮頸がんは、早期に発見すれば、子宮を温存した治療も

可能であり、学生の皆さんに、「子宮頸がんについて、正しい知識を持ち、自分の命と子宮を守るためにも、定期的ながん検診を受けましょう!」というメッセージが伝わりました。

＜参加者アンケートより＞

- *子宮頸がんについて、自分が全く知らなかったと気づきました。今のうちに知ることができてよかったです。
 - *子宮頸がんは、自分には関係ないと思っていました。今日の話聞いて、自分も子宮頸がんにかかる可能性があること知り驚きました。
 - *がんになってから後悔しても遅いので、必ず検診を受けようと思います。
⇒このように、アンケートでは、「子宮頸がんが身近なものであると知って驚いた」、「検診の大切さを感じた」という声が数多くありました。
- また、子宮頸がんの認知度に関するアンケートでは、このセミナーに参加するまで、参加者の89%の方が「子宮頸がんの主な発症原因がHPV感染であること」をご存知なく、94%の方が「子宮頸がん検診が20歳から推奨されていること」をご存知ない、という結果でした。愛知県では、今後も、このようなセミナーを実施し、若い世代の方に、正しい知識を持っていただく機会を増やしていきたいと思っております。